

# 評論文とは何か？ －評論文読解のコツを知ろう－

- 1 科目名 国語総合
- 2 単元名 評論 I
- 3 教材名 山崎正和「サイボーグとクローン人間」 オリジナルプリント使用
- 4 単元の内容

単元の目標  
と評価規準  
・評価方法

- ①単元の目標
- ア 評論文とはどのような文章かを理解する。 (知識・理解)
  - イ 評論文に関する基礎知識を用いつつ読解に取り組むことができる。 (読む能力)
  - ウ 評論文の正確な読解に基づき、自分の考えをまとめることができる。 (書く能力)
  - エ グループ学習に積極的に取り組み、評論文についてより適切な説明を考えようとする。 (関心・意欲・態度)

②単元の目標設定の理由

担当する生徒たちにとっては、体系的に学ぶ最初の評論文であり、そもそも評論文とはどのようなジャンルなのかを理解する必要がある。まずは中学校までに学習していた「説明文」との違いを理解し、基本的な評論文の構成を理解したうえで読み解いていくことで、限られた時間の中で効果的に評論読解力を身につけさせたいと考えた。

③中心となる学習活動

「評論文とは何か」というテーマについて、グループごとに説明を考える。グループごとに出てきた解答をクラス全体に還元し、授業者が補足説明を加えることによって評論文の構成に関する基本的な知識を得たうえで、それらを活用しつつ課題文の読解に臨む。

④言語活動の工夫

単元の目標アを達成するため、言語活動例「話し合いや討論をする言語活動」を応用し、まずは自分なりの答えを作成してからそれをグループ内で照らし合わせ、より適切な解答へと練り上げていくようにさせた。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	①グループの話し合いに積極的に参加し、より適切な説明を練り上げようとしている。 ②評論文に関する基礎知識を用いて読解に臨もうとしている。	観察 (机間指導)	・質問があれば遠慮なく申し出るよう全体に伝えておき、また、グループ学習への積極的参加を促す。
読む能力	①評論に関する基礎知識を用いて課題文を読解することができている。	観察 (机間指導) 定期テスト	・読解に行き詰った時は、第1時に確認した評論読解のコツに立ち戻りつつ、本文をよく読みこむよう助言する。 ・発問時には、状況に応じ、考えるヒントを提示する。
書く能力	① 評論文の正確な読解に基づきつつ、自分の考えを文章にまとめることができている。	観察 (机間指導) プリント提出	・近くの席の生徒と考えを述べ合う中から、文章化のヒントを得ることができるようさせる。

	知識・理解	①評論文に関する基礎知識を身に付けることができる。	観察（机間指導） 定期テスト	・第1時に学んだ評論読解のコツを繰り返し確認することで定着を図る。
成果と課題	全4クラスで実施したが、概ねどのグループも ①テーマがある。 ②根拠や具体例が示されている（論理的である）。 ④筆者自身の考えが示されている。 の3点（オリジナルプリント参照）は指摘することができた。しかし、 ③ 対比構造（二元論）がある。 については40グループ中3つのグループしか言及できていなかったため、これを特に強調すべき点とすることができた。			
アドバイス 及び 留意点	①事前に生徒の読書歴をある程度知ることができていれば、それに基づき、評論的文章を読み慣れた生徒が各グループに1人いるよう配置したほうがスムーズに進む。なお、説明の字数設定は50字程度が最も適している（これ以上だと焦点がぼやけ、これ以下だと必要な内容が押さえづらくなる）。 ②今回は評論文どうしによる比較を行ったが、中学校で学ぶ説明文教材（「流氷とわたしたちの暮らし」「五重の塔はなぜ倒れないか」「月の起源を探る」など）との比較を行いつつ、違いを明確に理解させるのも有効である。 ③初期評論文学習の導入としてあらゆる教材に応用可能。			
小中学校との 系統性	(中学校・3年生・C 読むこと) ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること			

## 5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1 (本時)	○評論文とは何か理解し、評論文読解の基本的なコツを知る。	・教科書に掲載された評論文を読み比べつつ、「評論文とは何か？」という問いに関する的確な解答を各自で考える。【Cア】 ・各自で考えた説明を基に、グループで話し合い、よりの確な説明を完成させる。【言エ】 ・各グループで完成された解答を板書し、それらを基にした授業者の説明を聞くことによって、評論文の特徴と、評論文読解のコツを知る。【Cア】 *なるべく生徒の中から出てきた言葉を活かしつつ、参考にした評論文に立ち戻りながら解説を行う。	まずは自分なりに説明を完成させようとしている。【関】 ↓ 観察（机間指導） プリント提出  互いの考えを活かしつつ、的確な説明をすることができている。【関・読】 ↓ 観察（机間指導） プリント提出  評論文の特徴と、評論文読解のコツを理解することができている。 ↓ 定期テスト	机間指導等の際、状況に応じたヒントを出す。 ↓ 留意すべきところとして全体に還元する。
2	○本文の意味段落構成を理解し、第1段落を読解する。	・本文を通読し、意味段落構成を考える。【Cア・イ】 *論理展開＝接続詞等に留意しつつ構成を把握するようアドバイスする。 *本文を貫く大きなテーマに注目させる。 ・第1段落の読解を行う。【Cア・イ】 *具体例の二項対立構造に注目させる。	前時に学習した評論文の特徴・読解のコツを意識しながら読解を行うことができる。【読・知】 ↓ 観察（机間指導） 定期テスト	机間指導等の際、状況に応じたヒントを出す。 ↓ 留意すべきところとして全体に還元する。
3	○第2段落を読解する。	・第2段落の読解を行う。【Cア・イ】 *二項対立構造・隠喩的表現に注目させる。	第1時に学習した評論文の特徴・読解のコツを意識しながら読解を行うことがで	机間指導等の際、状況に応じたヒントを出す。 ↓

			きる。【読・知】 ↓ 観察（机間指導） 定期テスト	留意すべきところ として全体に還元 する。
4	○第3段落 を読解す る。	・第3段落の読解を行う。【Cア・イ】 *二項対立構造・隠喩的表現に注目させる。 *現代社会における学習事項と関連させつつ、 近現代の思想との関連にも目を向けさせる。	第1時に学習した評 論文の特徴・読解の コツを意識しながら 読解を行うことがで きる。【読・知】 ↓ 観察（机間指導） 定期テスト	机間指導等の際、 状況に応じたヒン トを出す。 ↓ 留意すべきところ として全体に還元 する。
5	○第4段落 を読解し、 全体を総 括しつつ 自分の考 えをまと める。	・第4段落の読解を行う。【Cア・イ】 *全体を貫く大きなテーマと具体例の関係を、 二項対立構造に留意しつつ理解させる。  ・まとめ課題に取り組む。 1. 筆者の述べる「危険な好奇心を警 戒しているうちに……安全な常識が それ自身の足もとを覆してしまう。 」の具体例として、本文で示されて いる以外の適切な事例を挙げ、説明 せよ。 2. サイボーグとクローン人間に関す る筆者の考え方について自分自身は どう考えるか。賛成・反対どちらの 立場かを明らかにしつつ述べよ。 【Cア・イ】【Bウ】 *筆者の主張に関する具体例を自ら考えて理解 することや、筆者の考えに対する自分なりの 意見をもち、表現することの重要性を意識さ せる。	第1時に学習した評 論文の特徴・読解の コツを意識しながら 読解を行うことがで きる。【読・知】 ↓ 観察（机間指導） 定期テスト  本單元における読解 を踏まえて、自分の 考えを簡潔な文章に まとめることができ る。【読・書】 ↓ 観察（机間指導） プリント提出	机間指導等の際、 状況に応じたヒン トを出す。

6 第 1 時の学習指導案

本時の位置	1 時間目 (全 5 時間)		
本時の学習目標	<p>ア 教科書に掲載されている評論文を参考に、「評論文とは何か?」という問いに対する的確な解答を考える。(読む能力)</p> <p>イ グループ内で積極的に話し合い、問に対するよりの確な説明を完成させようとする事ができる。(関心・意欲・態度)</p> <p>ウ 評論文の特徴と読解における基本的なコツを知る。(知識・理解)</p>		
事前の準備	<p>①参考となる評論文(教科書掲載のもの)を事前に示し、予習として一読しておくよう指示する。</p> <p>②予めグループ分けを行い、連絡しておく。</p> <p>③学習プリントを準備する。</p>		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□本時の課題について知る。	①授業者から本時の課題と活動内容について説明を受ける。	・「評論文」というよく耳にする言葉について徹底的に考え、理解するため、この時間は辞書の使用を禁止するということを徹底して伝える。
展開 1 30分	<p>□個人学習</p> <p>□グループによる話し合い</p> <p>□各グループの解答を板書する。</p>	<p>②①で示された課題に予習を基にして各自で取り組む。</p> <p>③グループの形態に座席を移動させ、②で各自が作成した解答を持ち寄って、より適切な説明を練り上げる。</p> <p>④各グループで完成させた解答を、黒板に指定された場所へ書き、クラス全体に提示する。</p>	<p><b>目標アに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>〔規準〕 まずは自分なりに説明を完成させようとしている。</p> <p>〔方法〕 観察(机間指導) 〔状況Cの生徒への手立て〕 ・個々のつまづきに応じて助言を行う。</p> <p><b>目標イに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>〔規準〕 互いの考えを活かしつつ、的確な説明をすることができている。</p> <p>〔方法〕 観察(机間指導) 〔状況Cの生徒への手立て〕 ・各グループのつまづきに応じて助言を行う。</p>
展開 2 14分	□授業者による解説	⑤評論文の特徴と、それに関わる読解のコツについて、授業者による④に基づいた解説を聴き、理解する。	<p><b>目標ウに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>〔規準〕 評論文の特徴と、評論文読解のコツを理解することができている。</p> <p>〔方法〕 定期テスト 〔状況Cの生徒への手立て〕 ・機会があるたびに読解のコツについてふれることで定着を図る。</p> <p>・可能な限り生徒の中から出てきた表現を用いる。</p>
まとめ 1分	□次時予告	⑥グループ・個人プリントを提出し、次時より本時に学んだ評論文の特徴や読解のコツを用いて読解演習を行っていくことを予告する。	・読解のコツはあくまで「コツ」であり、常に応用が求められること、その応用理解力を、様々な文章を読みこなし、演習を積む過程で身につけていくことが現代文の学習なのだということを徹底して伝えておく。